

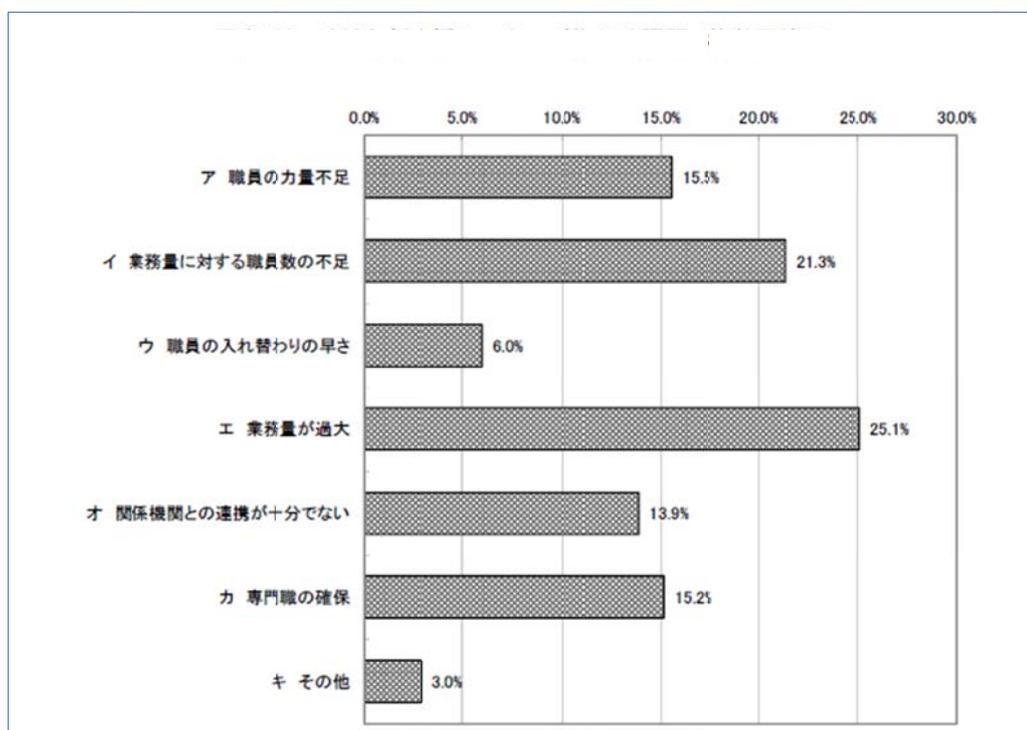
### 3 必要な人材の確保

#### (1) 地域包括支援センター

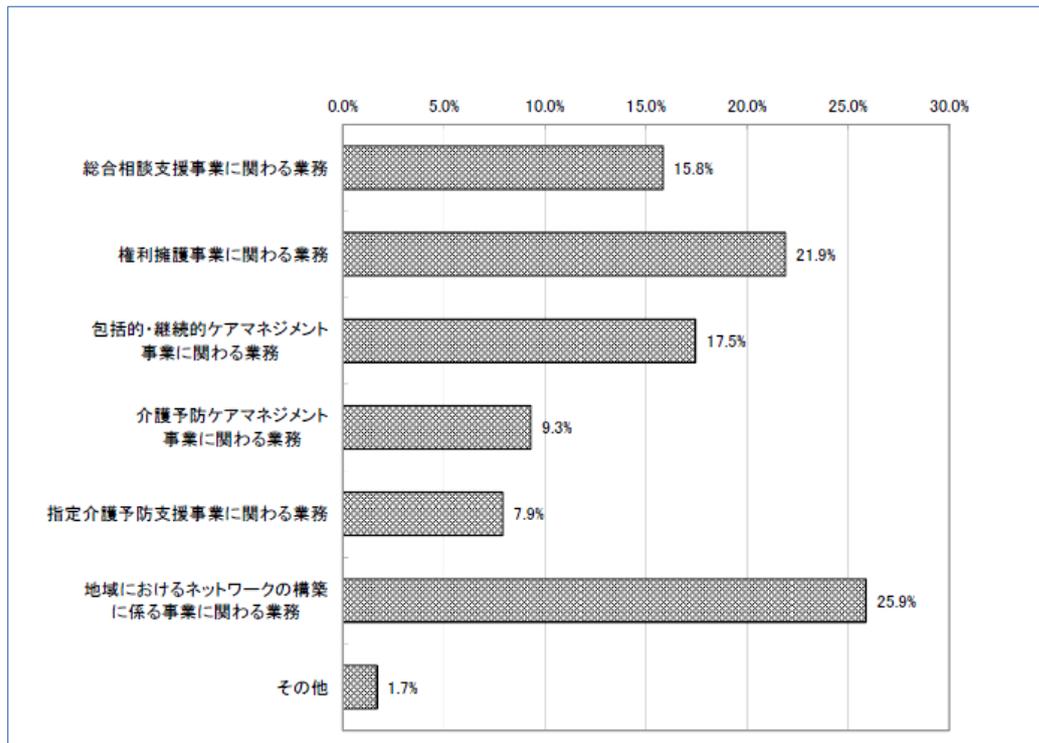
- 地域包括支援センターは、行政直営型、委託型にかかわらず、行政（市町村）機能の一部として地域の最前線に立ち、地域包括ケアシステムにおける中核的な機関として期待されており、地域ケア会議の開催などその業務が適切に実施されるには、高い能力を備えた人材が確保されることが重要である。
- しかしながら、平成24年9月に全国の地域包括支援センターを対象に実施された調査によれば、地域包括支援センターが抱える課題として、「業務量が過大」（25.1%）が最も多く、次いで「職員数の不足」（21.3%）が挙げられている（複数回答可）。

また、同調査において、「職員の力量不足」の場合の業務内容として、「地域におけるネットワークの構築に係る事業に関わる業務」（25.9%）が最も多く挙げられており、まさに地域包括ケアシステムの構築に必要なノウハウを有する職員が十分に確保されていない地域が依然として多いことがうかがえる（複数回答可）（図15・16）。

<地域包括支援センターが抱える課題〔図15〕>



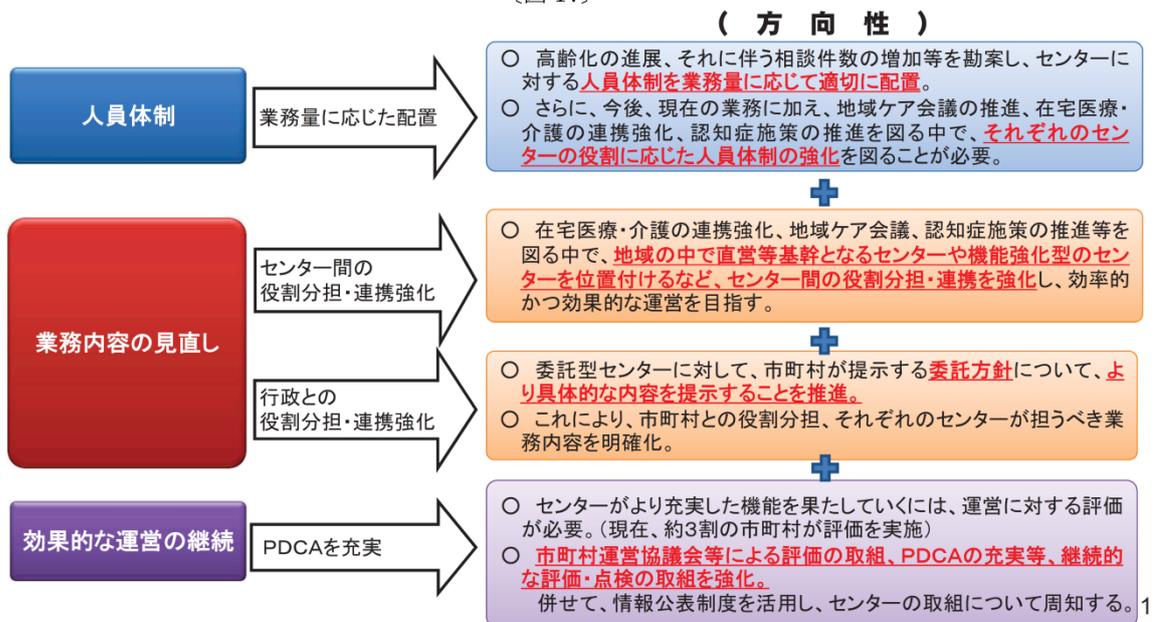
< 「職員の力量不足」 の場合の業務内容 [図 16] >



資料：「地域包括支援センターにおける業務実態や機能のあり方に関する調査研究事業報告書」

○ こうした中、国においては人員体制を業務量に応じて適切に配置するなどの機能強化が検討されている。(図 17)

[図 17]



資料：厚生労働省